

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00981

研究課題名(和文)「国風文化」期における中国書籍の流入状況に関する研究

研究課題名(英文)A study on the influx of Chinese books in the "Kokufu Bunka" period

研究代表者

榎本 淳一 (ENOMOTO, Jun'ichi)

大正大学・文学部・教授

研究者番号：80245646

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：平安時代中後期にあたる「国風文化」期における中国書籍(漢籍)の日本への流入状況に関する研究を行った。具体的には、貴族の日記中の漢籍記事の収集・整理、「通憲入道蔵書目録」の写本調査、藤原頼長の「要書目録」の分析・検討、書籍の「未施行」問題の解明などを行い、当該期にも多くの中国書籍が流入していたと思われる痕跡を確認できた。また、関連して「国風文化」期の中国文化の影響を人肉薬やミイラ信仰などからも明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、中国文化の影響が薄れたとされる「国風文化」期においても、中国書籍(漢籍)が多くもたらされていたことを明らかにできたことは、当該期の文化理解の常識を覆すことにつながるものと考え。すなわち、「国風文化」期においても中国文化の影響は大きかったことを解明できたと考える。実際、年号勘申や今昔物語集にも中国書籍の影響が確認されるし、死体の一部を薬とする人肉薬や死体を祭るミイラ信仰が中国から導入されていたことは、そのことを大きく裏付けるものである。当該期の文化を、雅で和風の貴族文化という一面的な捉え方から、多様性を持った文化であったという新たな見方に転換させる大きな意義があると考えている。

研究成果の概要(英文)：I researched the influx of Chinese books into Japan during the "Kokufu Bunka" period, which was the middle and late Heian period. Concretely, the collection and arrangement of Chinese articles in the diaries of nobles, the manuscript survey of the "Tsuken Nyudo's Library Catalog," the analysis and examination of FUJIWARA Yorinaga's "Required Books Catalog," and the clarification of the "unenforced" problem of books. We were able to confirm traces of the influx of Chinese books during this period as well. In relation to this, I clarified the influence of Chinese culture during the period of "Kokufu Bunka" through human medicine and the belief in mummies.

研究分野：日本古代史

キーワード：漢籍(中国書籍) 国風文化 藤原頼長 通憲入道蔵書目録 裔然 日宋貿易

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

平安時代中・後期の文化は、それまでの中国文化の模倣から脱し、日本風の文化が創造されたとして、「国風文化」と呼称されている。そして、「国風文化」は、それまで中国文化をもたらしてきた遣唐使が廃止され、中国文化の影響が弱まることで生まれたものと理解されてきた。しかし、1990年代以降、対外関係史研究が進展する中で、遣唐使廃止後には、中国商船の来航により唐物と呼ばれる中国の文物の流入が増大し、遣唐使が派遣されていた時代よりも中国文化の影響が増大していたのではないかと、という見方が有力化した。その見方に立てば、中国文化の影響が強まる中で「国風文化」が生まれたことになり、「国風文化」という呼称の妥当性が問題視されるに至った。

しかし、2000年代以降、中国文化の影響を軽視、ないし限定的に捉える研究が現れ、対外的な影響より国内的要因を重視する研究が台頭してきている。申請者は国内的要因を無視するものではなく、国内的要因と対外的な要因の双方から「国風文化」を検討すべきであると考え、本研究では現在の対外的な影響を極端に否定する研究状況を是正するために、敢えて対外的影響を実証的に解明しようとするものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「国風文化」期、すなわち平安時代中・後期(10～12世紀)における中国書籍の流入状況を明らかにすることである。当該期における中国文化の日本文化への影響が如何なるものであったかを考えるための基礎研究として、当該期に舶載された中国書籍に関する情報を網羅的に収集・整理し、多くの研究者に参照・利用してもらえるような史料集(データベース)を作成・公開することを目的とする。このような基礎研究を行うことによって、「国風文化」研究の進展に寄与したいと思う。

また、収集した史料を利用して、「国風文化」期の書籍交流の実態を解明し、その成果を社会に還元することも研究の目的とする。

3. 研究の方法

(1) 「通憲入道蔵書目録」の書誌学的検討

院政期(12世紀)の蔵書目録とされる「通憲入道蔵書目録」は、この時期の書籍の存在状況を窺い知る上で最も重要な史料であるが、藤原通憲の蔵書目録なのか、宮廷の蔵書目録なのか、その性格については不明な点が多い。本目録の諸本の原本調査を行い、校訂を行った上で、本目録の性格を明らかにし、著録された中国書籍の舶載時期について検討を加える。

(2) 平安時代中・後期～南北朝時代の漢籍記事の網羅的調査

従来は、当該期の古記録に見える漢籍記事のみにて、漢籍の流入を論じていたが、南北朝期まで調査範囲を広げることで、より精度の高いデータを収集できると考える。これまでも、鎌倉末・南北朝期の『花園天皇宸記』に院政期の藤原信西(通憲)の蔵書記事を発見しており、調査範囲を広げることの有効性を確認している。

(3) 日本現存の五代・北宋期の書籍の原本調査

当該期に流入した可能性のある中国書籍(五代・北宋期の書籍)の原本調査を実施し、識語や書き込みなどから日本への舶載の時期を探ってみたいと思う。調査対象となる史料の所蔵先については、阿部隆一氏作成の「宋元版所在目録」・「本邦現存漢籍古写本類所在略目録」等によって確認してある。

(4) 典拠・引用研究の調査

「国風文化」期の成立した日本の著作に関するの典拠・引用研究は、比較文学・日本文学の分野でかなり広範に行われている。そのような先行研究の成果に学び、五代・北宋期の書籍を典拠・引用する事例を収集する。

以上、主に4つの方法で集めた五代・北宋期の書籍情報を整理し、参観に便利な史料集を編纂・作成したいと思う。なお、可能な限り仏典の流入状況についても、先行研究を利用して情報を付加することも考えている。また、五代・宋代史、平安・鎌倉・南北朝時代史、平安文化史、日本文学、比較文学、書誌学など研究領域が広範に渉るので、必要に応じて各分野の研究者を招いて、研究会の形で専門知識を提供してもらうことも予定している。

4. 研究成果

本研究の成果を一言で言うならば、「国風文化」期においても、中国書籍（漢籍）が多くもたらされ、当該期の日本文化に大きな影響を与えていたことを明らかにしたことである。従来、中国文化の影響が薄れたとされる「国風文化」期にも中国文化の大きな影響があったことを解明したことで、通説の大幅な見直しを迫ることになった。日本文化の理解自体にも、大きな修正が必要になることだろう。

また、書籍の面からだけでなく、人肉薬による治療方法の流入、すなわち中国医学の影響についても明らかにできた。高僧などの遺体をミイラ化させて、それに現世利益や極楽浄土を祈願するという中国仏教の影響についても論じた。書籍による知識・情報のみならず、見聞による情報も大きな役割を果たしたことを解明できたことは有意義であったと考える。

以上の研究成果を論文として発表するだけでなく、学会・研究会などでも発表したが、成果の概要を中国人の日本文化研究者に対し講演という形式で広く発信できたことは、研究の国際交流という観点からも大きな意義があったと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 榎本淳一	4. 巻 70
2. 論文標題 上野利三著「飛鳥浄御原律の存否について」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法制史研究	6. 最初と最後の頁 316-317
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本淳一	4. 巻 15
2. 論文標題 『日本国見在書目録』著録書籍の総巻数について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鴨台史学	6. 最初と最後の頁 1 - 20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本淳一	4. 巻 854
2. 論文標題 柳川響著『藤原頼長 - 「悪左府」の学問と言説 -』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 89 - 91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本淳一	4. 巻 1025
2. 論文標題 吉川真司編『シリーズ古代史をひらく 国風文化－貴族社会のなかの「唐」と「和」－』を読んで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 28 - 33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 榎本淳一
2. 発表標題 律令制における法と学術
3. 学会等名 第117回史学会大会日本古代史部会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎本淳一
2. 発表標題 武士と中国文化
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究会「貴族とは何か、武士とは何か」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 榎本淳一
2. 発表標題 「国風文化」期の漢籍の流入と受容
3. 学会等名 鄭州大学垂洲文明高端講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 鈴木靖民・榎本淳一ほか29名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 461
3. 書名 古代日本対外交流史事典	

1. 著者名 小口雅史・榎本淳一ほか16名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 403
3. 書名 古代東アジア史料論	

1. 著者名 木本好信・榎本淳一ほか63名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 843
3. 書名 古代史論聚	

1. 著者名 大津透・榎本淳一ほか11名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 298
3. 書名 日本古代律令制と中国文明	

1. 著者名 氣質澤保規・榎本淳一ほか14名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 404
3. 書名 隋唐洛陽と東アジア 洛陽学の新天地	

1. 著者名 古瀬奈津子・榎本淳一ほか20名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 511
3. 書名 古代日本の政治と制度 律令制・史料・儀式	

1. 著者名 榎本 淳一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 234
3. 書名 日唐賤人制度の比較研究	

1. 著者名 榎本淳一・吉永匡史・河内春人・楯身智志・塚本剛・洲脇武志・梶山智史・会田大輔・江川式部・河内桂・橋本繁・柿沼陽平・小林岳・野田有紀子・濱田寛・河野貴美子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 229
3. 書名 中国学術の東アジア伝播と古代日本	

1. 著者名 金子修一・荊木美行・田中史生・河内春人・葛継勇・巖如蕙・中野高行・浜田久美子・篠崎敦史・野田有紀子・菊地大・榎本淳一・江川式部・侯振兵・速水大・岡崎裕子・石見清祐・河野保博・澤本光弘・樋口秀美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 596
3. 書名 東アジアにおける皇帝権力と国際秩序	

1. 著者名 榎本淳一ほか34名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 270
3. 書名 人物で学ぶ古代史3平安時代編	

1. 著者名 吉川真司・榎本淳一ほか14名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 329
3. 書名 講座畿内の古代学 第4巻 軍事と対外交渉	

〔産業財産権〕

〔その他〕

researchmap https://researchmap.jp/JEnomoto-0530
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------